

辻泰弘 国会ニュース

つじやすひろ Kokkai News 2002年10月3日 NO. 21

決算委員会で国会質問第14弾！

財務大臣、金融大臣に税制、金融政策を問う！！



人恋しく、愁いを帯びた季節の到来が、日ごとに実感される今日この頃。
皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

民主党の代表選挙は、ご承知の通り、ようやく当面の収束を迎え、一段落です。

党運営のやり方、幹部の動き、不満を抱いたメンバーのマスコミへの対応などを見る時、民主党が国民からの信頼と期待を集める中で政権を担い、国政を預かるには、まだまだ十分な力量が備わっているとは思われません。

8月、次期リーダーの呼び声高き前政調会長は、「自民党との比較や違いの強調ではなく、21世紀の日本のあるべき政党を目指す」との「プラン」を発表し、少なからぬ賛同を集めていたようですが、これとても私には理解に苦しむことでした。

民主党が政権に近づくためには、理念やそれに基づく具体的政策において、自民党との違いを国民にわかりやすく明示することが必要だと思えます。

また、民主党がどのような政党をめざすのか、という最も本質的で重要な部分について、「21世紀の日本のあるべき政党をめざす」などと、全く意味をなさない表現で済まし得る感覚、それをそのまま公表できる感覚は、私の理解をはるかに超えるものでした。

課題山積の民主党。まだまだ時間がかかりそう。イバラの道ははるかに続く・・・。

さて、8月29日、決算委員会が開催。全体で6時間のコースの中、私、辻泰弘は、塩川財務大臣、柳沢金融担当大臣（当時）に対して、30分間の質問を行いました。

当日の日本経済新聞夕刊一面には、私、辻泰弘の「政策金融」についての質問に対する財務大臣の答弁が大きく掲載されました。（3頁目をご覧ください）全国紙の一面に質問記事が掲載されたのは初めて。しかし、喜びも束の間！ 報道は首都圏のみでした。

また、翌日の各紙には、「政策金融見直し」「年金辞退の場合の相続税軽減」「個人向け国債の利子非課税」に関する記事がかなり掲載されました。

ただし、またまた「辻の質問に対して」との「極めて重要な記載」が抜けているものがほとんどでした。でも、マスコミが記事にするような、ポイントを衝いた質問だったのですヨ。ほめてやって下さいネ！！

以下、8月29日、決算委員会の質疑の概要をご報告します。

◆増減税の基本方針について

辻 泰弘 塩川財務大臣は、減税は 2003～2005 年度まで、増税は 2003～2007 年度までという考えを示したが、閣議決定方針では、税制改革は 2006 年度までに完了となっている。最終年度はどうするのか。

塩川財務大臣

「2006 年度までに完了」の方針に拘束される必要はない。増減税の間に時間的なずれがあってもよい。バランスは 5 年で取れるようにしたい。

辻 泰弘 大臣は、増税項目については、「石清水をためる」と表現している。どういものが検討対象となるのか。

塩川財務大臣 広く薄くだ。

◆年金辞退の際の相続税軽減について

辻 泰弘 塩川大臣は、年金を辞退すれば相続財産から軽減する考えを示している。

これは、今後の税制改正、あるいは年金改革の中で具体化するのか。

塩川財務大臣 政府税調に提案してみたいと思っている。

◆個人向け国債の利子非課税について

辻 泰弘 現在、個人向け国債の商品設計が検討されている。大臣は、その利子所得に対する非課税措置に前向きと聞くが、見解はどうか。

塩川財務大臣 非常に前向きだ。個人が国債を持つことは国の経済が一番安定すること。インセンティブとして考える。

◆2004 年度からの新紙幣発行の目的は

辻 泰弘 新紙幣発行の目的は何か。

塩川財務大臣 不正防止、偽造防止が目的。景気刺激のための改刷ではない。

◆不良債権処理のための政策について

辻 泰弘 2004 年度には不良債権問題は正常化、との認識に変わりはないか。

柳沢金融担当大臣 政府の「改革と展望」の経済状況を前提とする限り可能だ。

辻 泰弘 不良債権問題の正常化をはかるために必要な政策は何か。

柳沢金融担当大臣 「改革と展望」が示すマクロ経済運営の実現。金融庁は、自分の守備範囲のことをきちっとやる。

◆ペイオフの解禁について

辻 泰弘 今年 4 月のペイオフ解禁に伴う、定期から普通への資金移動をどう評価。

柳沢金融担当大臣 減っているところでも、対前年同月比で 2 % 台半ば。大変な影響があるとは考えていない。

辻 泰弘 大臣は、ペイオフの解禁を構造改革の一環と強調。決済性預金保護の方針は、実質的な解禁延期。骨抜きでは。

柳沢金融担当大臣 決済性預金の問題は金融システムの非常にバイタルな問題。その他流動性預金は凍結解除。構造改革の一環としての、施策の一貫性は堅持。

辻 泰弘 普通預金解禁延期の道はないか。

柳沢金融担当大臣 そのとおりだ。

◆政策金融見直しの方針について

辻 泰弘 政策金融の評価と見直し方針は。

塩川財務大臣 政策金融は戦後の日本の経済復興の根幹を成した、と高く評価。

しかし、戦後 50 年、経済は進展。民間活力活用が将来の経済発展によい。特定分野を除き、原則廃止がよい。金融状況、経過措置に配慮しつつ、転換すべきだ。

ご意見・ご要望等ございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

<兵庫県事務所> TEL078-230-8824 / FAX078-230-8825

<東京事務所> TEL03-3508-8402 / FAX 03-5512-2402